

平成27年度 校内研修報告書

学校名 藤岡市立小野中学校

住 所 藤岡市立石407番地

校長名 関 根 真 理

I 研修主題

学びをもとに協働しながら、高め合い、目的を達成しようとする生徒の育成
－9年間のつながりを活かす教科のスタンダードを意識した授業改善を通して－

II 研究の概要

1 主題設定の理由

本年度は、『夢に向かってかがやく子』に向けて、生徒の実態をもとに卒業時の目指す生徒像を具体的にイメージして、研究主題である「学びをもとに協働しながら、高め合い、目的を達成しようとする生徒の育成」を設定した。これは、学習指導要領の理念である「生きる力」と合致するものであり、いわゆる学力の3要素を、育むべき重要な資質であるにとらえている。中でも、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の育成が本校の研究の中核であり、言語活動の充実が具現化のための鍵であると考えている。

これらを踏まえて、昨年度実践した理科の研究を他の教科にも広げ、各教科等における目指す児童生徒像をより具体的にすること、それらを具現化するための手立てを焦点化すること、9年間のつながりを意識した系統図を作成することに取り組み、全ての教科において「教科のスタンダード」を確立させる。これらの研修を通して、各教科の縦のつながりや、学年としての横のつながりを強化しながらベクトルの方向性を揃えとともに、学校種や教師による授業の温度差の解消、思考力等を育む授業の質の向上を図ることにより、主体的に学習に取り組み、目的を達成すべく仲間と協働する中で思考力を伸ばす児童生徒を育てたいと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

9年間のつながりを活かす教科のスタンダードを意識することで、学びをもとに協働しながら、高め合い、目的を達成しようとする生徒を育てることができていることを、授業改善を通して明らかにする。

3 研究の内容と方法

(1) 研究内容

○系統一覧表、指導の系統の作成

教科ごとに、系統一覧表と指導の系統を作成し、生徒の実態から見た課題を明確にし、強化が必要な単元等を単元配列表の中に色を付けるなどして指導を強化する単元を分かりやすくする。

○9年間のつながりを生かした授業づくり

・教科ごとに作成した系統図を使いながら、その授業が、小学校も含む過去のどの単元とつな

がっているか、また、これら先のどの単元と、どのようにつながっているかを意識して、授業づくりをする。

- 授業のスタンダードを意識した授業展開
 - ・各教科における目指す生徒像の明確化
 - ・生徒主体の授業づくりのための、一時間の展開の共通実践

(2) 研究方法

- 教科部会を中心に研究を進め、系統表の作成、教材研究や授業実践を行う。
- 小学校の担当教諭とも意見交流を進め、9年間の系統を意識して研究を深めていく。

4 研究の経過

- 4/3 本校の取組について、教科部会、副教材決定、指導の重点の確認 等
- 4/27 昨年度までの実践と今後に向けて
- 5/18 計画訪問(10/19)授業計画、系統図作成重点領域等の検討
- 6/1 合同研修① 小学校計画訪問に向けた指導案検討
- 7/2 小野小計画訪問 教科部会ごとに授業を参観する。
- 8/20 合同研修② 川崎知己氏（世田谷区立瀬田中学校校長、元三鷹市教育委員会小中一貫教育課長）をお招きしての講演会。授業振り返り、それを受けて中学校の計画案
- 9/1 合同研修③ 中学校計画訪問に向けた構想シート検討
- 10/19 小野中計画訪問
- 11/4 合同研修④ 授業振り返り 系統図作成
- 11/24 合同研修⑤ 西部教育事務所上原永次管理主監をお招きしての講演会、福井県教育フォーラム視察の報告
- 1/25 教科部会、系統図作成
- 2/8 合同研修⑥ 系統図を教科ごとに発表、1年間のまとめ
- 3/2 市内16小中学校等に系統図等のデータ配布

5 主な実践

○系統一覧表、指導の系統の作成

5回の合同研修や、研究授業の参観、相互の乗り入れ授業を通して、9年間の系統に対する意識高めていけるようにした。その中で、系統一覧表や指導の系統の書式について、教科部会ごとに検討を加え、より使いやすいものになるようにした。（市内16小中学校等に系統図等のデータ配布）

書式については以下のように定めた。

- 1) 系統一覧表 ①題名：○○科 系統一覧表
- ②作成ソフト：Word、一太郎、Excel 等、自由
- ③用紙サイズ：A3

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
数の概念	10までの数 ○数え方、読み方、書き方 ○0の意味、書き方 ○数の大小			表より大判、筆の単位、エジプト数字の記号法
数の性質	○0の意味、書き方 ○数の大小			○10進法、100進法、1000進法 ○数の大きさ ○記号法（小数点、千分点）
数の関係	○数え方、読み方、書き方 ○数の大小、大小、順序	○数え方、読み方、書き方 ○数の大小、大小、順序	○数え方、読み方、書き方 ○数の大小、大小、順序	○数え方、読み方、書き方 ○数の大小、大小、順序
数の計算	○数え方、読み方、書き方 ○数の大小、大小、順序	○数え方、読み方、書き方 ○数の大小、大小、順序	○数え方、読み方、書き方 ○数の大小、大小、順序	○数え方、読み方、書き方 ○数の大小、大小、順序

学年	内容	指導のポイント・具体的な指導例
1年	○数数の意味と表し方。 ・2位数、簡単な3位数など	○ものごとの対応させることによって数数を比べることで、個数や順序を正しく数えたり数したりすること、数の大小の順に並べること、一つの数を他の数の和や差としてみることを指導する。1.0のまとまりをつくらせて数える活動を通して、十進位取り記号法として理解できるようにする。2位数の表し方では、具体物を使った、具体物で表したりするなどの活動を通して理解させる。
2年	○数数の数の表し方。 ・3位数、4位数、1万、簡単な分数（1/2、1/4など）など	○同じ数の大きさのまとまりにして数えたり、分けて数えたりすること、十進位取り記号法により数を表すこと、数を半や四を単位としてみることを指導して数数を用いる能力を伸ばすようにする。 ○具体物を用い、1/2、1/4などの簡単な分数について指導し、これからの分数の理解のための基盤となる算地的な学習活動を行う。

2) 指導の系統

- ①題名：指導の系統（○）←内容、領域、力等を記入 ②作成ソフト：Word、一太郎、Excel等、自由 ③用紙サイズ：A4

○9年間のつながりを生かした授業づくり

- ・平成27年11月13日（金曜日） 社会科 指導者 落合清貴
単元名 武士の台頭と鎌倉幕府

鎌倉幕府が元寇を退けたにも関わらず勢力が弱まり、滅亡に向かっていく要因を資料からじっくりと考えさせた。さらに、小学校の既習事項である「御恩と奉公の関係崩壊」以外にも、分割相続などによる御家人の生活苦、徳政令の効果の薄さ、倒幕運動の広がりなどにも目を向けさせ、鎌倉幕府が滅亡に向かう様子を多面的・多角的に捉えられるようにした。

- ・平成27年12月8日 家庭科 指導者 古市由香里

題材名 安全で快適な住生活のために（快適に住まう）

小学校で、整理整頓や清掃の工夫、季節に合わせた空気の流れの調節など自分の身の回りに関するを中心に学習してきたことを踏まえ、家族の健康に配慮した安全で快適な住まい全体の中で、室内の空気を清浄に保つための具体策について工夫できるようにした。

○授業のスタンダードの具体化

福井県や秋田県での実践を参考にしながら、右図のような掲示物をつくり、全ての教室に掲示し、教師だけでなく生徒も意識して授業に取り組めるようにした。



III 研究実践の成果

- 小学校・中学校の系統一覧表を小中の教員が協働で進め、指導の難しい点を解決するための手立てについて話し合いをもつことができたのは、教育課程を連携するためのスタートラインにたつことができたといえる。
- 指導案を作成する際に小中の両教員で具体的な手立てを話し合えたので、教科のスタンダードを意識した授業づくりを協働で進めることができた。
- 合同研修会の講演会で、西部教育事務所管理主監上原永次様より「振り返り」の時間の大切さを教えていただいたので、教科によっては授業の組み立て自体を再構成する検討がなされた。
- 今後は「課題」を生徒の疑問から提示できるように、小学校の教科書から疑問を引き出すような授業づくりを進めることが必要である。小学校の学習を想起させることで、学習意欲を喚起し、学習のハードルを下げる効果があるので、学力向上にもつながるように、来年度の指導案に盛り込むようにしていきたい。
- 今年度は小中で研究授業を相互に参観し、研修の機会を広げることができた。来年度は、授業検討会にも参加をして、さらに授業改善の推進を図る。

IV CRT学力テストの結果分析及び次年度の学力向上対策の方向性

1学年	成果	課題	来年度の授業づくりに向けて
国語	正確な読み取りと、文字表現や記録を正確に取ることはある程度できるようになり、表現力が上がっている。	プレゼンなどの音声表現を主体的に進めるための意欲がさらにあがることよい。	司会進行を引き続き立てて、生徒による授業進行を行わせながら、国語好きの生徒を増やしていくことが目標であり、それがアクティブラーニングにつながることを考える。
算数 数学	・全国の正答率と比較して、「比例・反比例」は0.9ポイント、「平面図形」は2.4ポイント上回った。確認テストを行ったり、復習をする時間が十分に確保できた成果が現れた。	・全国の正答率と比較し、「基礎」で1.7ポイント、「活用」で0.3ポイント、「教科全体」では1.5ポイント下回った。 ・領域別に見ると、「数と式」は2.9ポイント下回った。 ・小問別に見ると、異分母の分数の加法や分配法則、かっこ・分数を含む1次方程式など、計算の基礎的な学習が身についていないことが考えられる。	・家庭学習などで習熟を図ろうとする姿勢に欠ける。そのため、小テストなどで習熟をたしかめ、できなかったときに補習を行うなどして学習を定着させる習慣を身につけさせる。 ・数学への苦手意識から文章題をあきらめてしまう生徒が多いため、問題をよく読んで考える時間を確保する。
理科	・全国の正答率と比較し、「基礎」で3.8ポイント、「活用」で1ポイント、「教科全体」では3.3ポイント上回ることができた。領域別では、「植物の生活と種類」は+6.0、「身の回りの物質」は+5.1と好成績であった。 ・観点別では、「観察・実験の技能」は+8.3で最も高く、続いて「思考・表現」+3.9、「知識・理解」+3.9、「関心・意欲・態度」+1.2で良好な結果となった。	・「身近な物理現象」は-8.4と低かった。テスト前に1・2学期の復習は十分にできたが、「身近な物理現象」は授業が終わったばかりで、復習が十分でできなかった。『コンピュータを使った四択クイズ』は2時間で一領域を復習できるので、進度を早く進め、「光・音」の学習も確実に押さえたい。「問題解決的な学習」を毎時間行った結果、「観察・実験の技能」を伸ばすことができた。	・昨年でもできなかった「鉄と銅の区別」や「氷がとけた後の体積減少」は、意識して指導したつもりだったができなかった。忘れてしまいがちなので、定期的に戻るとか、体験コーナーを設けるなどの工夫をした。 ・活用力を高めるために、「考察」や「感想」の時間を充実させるとともに、計算問題の解き方にも時間をかけて指導したい。
社会	・全国平均と比較し、教科全体では約5ポイント、「基礎」で約5ポイント上回った。 ・観点別では「社会的な思考・判断・表現」で約5ポイント上回り、授業の中で自分の考えを表現させる活動を重視してきた成果の表れと言える。	・領域別で見ると地理分野の「世界の諸地域」のプラスポイントがやや低めである。 ・小問題で見ると「平安京」を地図上の位置と関連付けて理解する問題、「古代の文化」を文化財と関連付けて理解する問題の正答率が低くなっている。	・複数の社会的事象や資料を比較・関連させ、自分のことばで表現する活動を積極的に取り入れていく。 ・歴史分野の授業でも地図帳を活用するなどし、横断的に力を伸ばす意識を高めていく。
英語	・毎日の授業のウォームアップで、コミュニケーション活動やペアで練習する活動など、声を出したり動いたりする時間を持っているため、リスニング力や対話で応答する力が付いた。 ・基本文を習熟させた後、まとまった量(3文、5文、10文など)の文章で自己表現する時間を持っているため、英作文力が身に付いた。	・教科書以外の長文に触れる機会が少ないため、長文を読み取る力が十分に身に付いていない。 ・繰り返しの練習が不十分な生徒が、語彙の知識や理解、単語の並べかえの力が不足している。	・コミュニケーション活動を続け、力を付けさせたい。 ・まとまった量の文章を書く機会も持ち、自己表現力を高めさせたい。 ・繰り返しの練習は家庭学習によるところが大きいので、確認をこまめに行い、基礎基本の定着を図ってほしい。
学年 の ま と め	ディスカッション形式の授業や話し合い活動を多く取り入れて、考えを深化・統合させる習慣を付けさせてきた。よって、発信して伝える力が身につけてきた。また教科ごとにねらいをしっかりと把握させた上で、授業を展開した結果、全国の正答率を上回っている内容が多い。	さらに5教科の正答率を上げるために、よりきめ細やかな授業展開が必要である。言語能力や数学的思考、社会的思考、科学的思考など、実生活とつなげていける横断的な学習能力をさらに身に付けさせていくことが、大切である。	見やすいノートの使い方、わかりやすい整理の仕方にこだわらせることで学力を上げさせていきたい。また、アクティブラーニングを意識した授業を展開したい。
2学年	成果	課題	来年度の授業づくりに向けて
国語	正確な読み取りと、文字表現や記録を正確に取ることはある程度できるようになり、表現力が上がっている。	プレゼンなどの音声表現を主体的に進めるための意欲がさらにあがることよい。	司会進行を引き続き立てて、生徒による授業進行を行わせながら、国語好きの生徒を増やしていくことが目標であり、それがアクティブラーニングにつながることを考える。
算数 数学	・全国の正答率と比較し、「基礎」で10.4ポイント、「活用」で10ポイント「教科全体」では10.4ポイント上回った。特に「1次関数」は12.9ポイント、「連立方程式」は12.5ポイント上回っており、年間指導計画を工夫して、テスト前に1学期の内容を重点的復習したことや前年度低かった1次関数における面積問題は、指導計画に位置づけて授業で要点を押さえた前年度比22.0ポイントであった。	▼「式の計算」は前年度比-1.9ポイント、「連立方程式の計算」は前年度比-2.15ポイントであり、日常の計算練習が不足していると考えられる。 ▼合同な図形について文章で表されたものから選ぶ問題は、前年度比-13.3ポイントであり、逆が正しいかどうかを判断する問題と混同していたと考えられる。	・全体的に数学に対する能力は高いが、自ら地道に努力して定着させる姿勢にやや欠ける面が見られる。豆テストや単元テストを強化して、定着させる習慣を身につけさせること。 ・一問一答の即答できる問題の反応はよいが、じっくり考えて答えを求める問題や時間を授業で意図的に扱い、慎重に推敲する姿勢を高める。
理科	・器具操作や実験方法の手順・確認の理解、ヒトの体のしくみや脊椎動物についてはしっかりと理解ができていた。 ・発熱反応などの日常生活の中での知識について考えることができていた。	化学反応式についての理解、化学変化における質量保存の法則についての理解が弱い。 軟体動物の分類が理解できていない生徒が多かった。	化学反応式・質量保存の計算については、繰り返し練習する時間を確保する。 ヒトの体や動物の分類は、系統立てて授業を進め相互関係を理解できるような授業に努める。
社会	・全国平均と比較して、教科全体では約8ポイント、「活用」では約12ポイント上回った。 ・観点別では「社会的な思考・判断・表現」で約10ポイント上回り、未解答の問題も昨年度より減少した。	・領域別では「世界と比べた日本の地域間の結びつき」のプラスポイントが低い。 ・領域別正答率も地理的分野の方が多少プラスポイントが少ない。	・引き続き、文章記述や話し合いなど自分の考えを表現する活動を重視し、言語能力の向上を図る。 ・資料や社会的事象を複数の視点で比較・検討し、思考・判断・表現力を高めていく学習を積極的に取り入れていく。
英語	・普段の授業で学び合いの方法を取りつつ、長文の内容把握や英作文の課題に取り組んだ結果、長文・英作文の部分で良い成果が出た。	・時制の認識が甘いので、状況をイメージさせて理解を深めさせたい。	・教科書の本文などの長文をしっかりと読む習慣を付けさせる。 ・時制のそれぞれの違いについて、実際の場面に即して多くの例文を与え、理解させる。(進行形や現在完了形の意味や用法の違いなど)
学年 の ま と め	・各教科ともに、全国の正答率を上回る結果となった。 ・基礎では数学が+10.4ポイント、活用では社会の+12.4ポイントが大きく上回った。 9年間を見通したスパラル学習に実施に加え、授業に前向きに取り組むことができる雰囲気や定期テストで得点を上げたいという意欲の高い生徒が各クラスともに見られることが基礎力定着にあると考える。	・基礎に比べ全体的に、活用が低い。教科により、補強すべきポイントが明確になっているので、指導計画の見直しと重点化を行うことが必要である。	・基礎力を活用し主体的に考える姿勢を身に付けることができるように、授業展開の「めあてをはっきり」「課題をじっくり」「まともをしっかりと」「振り返りをみっちり」の中で「課題をじっくり」の展開方法を工夫しより考えが深められるようにすることや「振り返りをみっちり」でまともとして活用をさらに意識させるようにしていく。